

「認知特性からみた子どもの理解と支援」

～その子らしさに気づく～

講師：城南中学校 岸田 丈子 先生（LD等指導教室担当）

1 期 日 令和3年10月27日（水）

2 参加者 約30名

3 内 容

はじめに、岸田先生から認識テストの動画の紹介がありました。動画は、白と黒の2チームが、入り乱れながらバスケットボールをパスし合うものでした。視聴前に岸田先生から白チームがバスケットボールを何回パスしているか数えるように問われ、参加された先生方は、パスの回数に集中して動画を視聴しました。視聴後、動画内で何かおかしいことが起きていなかったか問われましたが、白チームに集中していたため

“黒い熊の着ぐるみを着た人がムーンウォークをしている”ことに全く気がつきませんでした。この動画から、「意識しないものは、見えにくい」ことを体感し、講演の本題に入っていました。



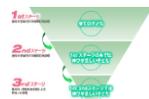
講演の中では、認知（情報処理）のスタイルの説明がありました。道案内や料理作りを例に、手順を追って理解することが得意なのか、全体像を見て理解することが得意なのか、または両方とも得意なのか、参加者の先生方がご自身の日常の姿を振り返って、自分の認知スタイルを確認していました。そして、子ども達も同じように得意・不得意があることから、それぞれの子どもにどのような支援をすると

よいのか、LD等通級指導教室で実践されている具体的な例を紹介していただきました。また、WISC-IVとKABC-IIの概要の説明から、検査結果をもとにした子どもの困り感への支援の方略を紹介していただきました。

岸田先生が最後に伝えてくださった「発達特性は才能でもある」ことを忘れず、「同じことよりも違いにこそ価値がある」そのことを大切に考えていければと思います。

できて当たり前からつまずいて当たり前へ

RTIモデル～多層指導モデル(海津・杉本 2016)
Response to Intervention/Instruction
(指導に対する子どもの反応の有無に注目する)



- ・子どものつまずきが深刻化する前の迅速なアプローチ
- ・クラス全体への効果的な指導が行われるため、LD等の子どもだけでなく、学習に困難のある子ども、クラス全体への効果へとつながる

発達特性は才能でもある！

いわゆる「才能」と関連していることは疑う余地がない！

- ・過集中→飽くなき探求心
- ・こだわり→緻密な計算、一芸に秀でる
- ・多動→尽きぬ好奇心、発明・発想・ひらめき
- ・同一性保持→ルール・決め事の順守
- ・記憶の問題→すぐれた記憶力
- ・感覚過敏→芸術性

同じことよりも違いにこそ価値を！